

平成28(2016)年「正覚寺報」6月号

ご案内

お聴聞と人生を語る会6月5日(日)20時～

会員様の積極的なご発案で四年前に発足した当院の「御法話会(お聴聞の会)」は、本年度当初から発展的に首記のように改称し新たな営みを続けております。如来様のお慈悲を賜り、自らの歩みをお訊ねする営みでございます。

仏教婦人会例会 6月16日(木)19時半～

この機会にお願いがございます。まもなく滋賀組第15期「連研」が開催されます。今回は仏婦の皆様へ御受講戴く順番です。ぜひこの機会に御受講戴きたくお願い申し上げます。

八幡別院の春法要・降誕会のご法縁

住職は、去る五月十六日&十七日の二日間に亘って、本願寺八幡別院の「春法要」「降誕会」のご法座への出講のご縁を戴き無事お勤めを果たして戴いて参りました。

・「春法要」は、本願寺第十一代頭如上人のご法要であります。石山戦争のご法難で織田信長との十年戦争のご苦勞を経て、最終的に京都堀川の地に唯今の本願寺の礎をお築きになりました。

・「降誕会」は、申すまでもなく親鸞聖人のご誕生をお祝いするご法要であります。滋賀教区の門徒推進員のお参りもあって、百名もの御門徒様方をお参り下さったのであります。

御法話では、日本文化・日本語の特徴に分け入ってお話を切り出しました。

入力	活動	出力
水		お湯

水をお湯にする活動をどう云うかをお訊ねします。「沸かす」です。だから「お湯を沸かす」といいます。では、次の場合はどうでしょう。

お米		ご飯
----	--	----

ご飯の場合は、「炊く」となります。だから

“ご飯を炊く”といえます。

この様に日本文化では、目標とする結果物を示してその活動を表します。これをプロセスアプローチといい、その原形は実は日本文化の中に既に存在したことがわかります。

この表現が有効なのは、「結果物」もこの世で目にする既に分っているものに限られます。

でも「ご飯を炊く」場合は、実はそう簡単ではありません。昔はおくどさんでご飯を炊きました。昔々の思い出、ある日ご飯を炊くと、あつという間に湯気が噴き出したので今日は随分早く炊き上がったと思いました。

ところがさにあらず、蓋を開けてみるとお湯の底にはお米が鎮座してましました。

おくどさんでご飯を炊く場合、初めにパッパと燃やすと、水だけが沸騰します。

だから、ご飯を確実に炊くには昔の人は「初めちよろちよろ中ぱっぱ」と教えたのです。

この言葉はお聴聞に参画戴ける殆どの方が知っていて当日もにこやかに応じて戴いたのです。

そこから、浄土真宗のお救いに与るにはどうすればよいかといえば、如来様にお会いするにしくはないと押さえ、この目で仰ぐ「見遇」とこの耳で聞く「聞遇」という言葉があったこと、この言葉がある以上、昔の人はきっと「見遇」「聞遇」に恵まれる道行きを丁寧にご案内された筈だと云うことを申し上げたのです。

・如来様にこの目でお会いする「見遇」のご縁は『観経』『住立空中尊』に由来すること、

・如来様のお喚び声に遇わせて戴く「聞遇」の次第を、妙好人の浅原才市さんの詩「なむあみだぶの居り場が知れた」でご案内し、最後に、仏教讃歌「ふとおおぎみるおすがたは」を皆様とご一緒に歌わせて戴きお慶び戴いたのです。合掌。